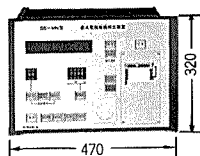


DS-MN型

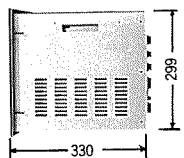
＜外形寸法＞

入力48回路の場合

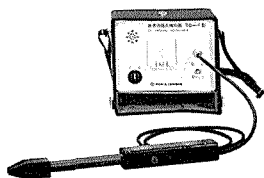
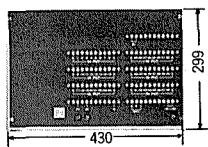
正面



側面



裏面



DS-P型

貫通形変流器

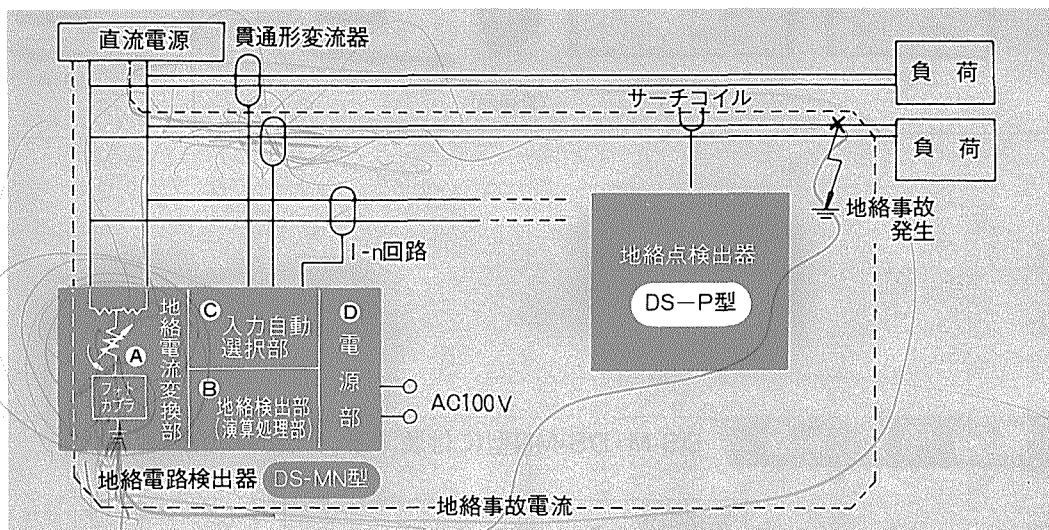
各電路ごとに挿入して、地絡事故電流を検出する。

地絡電路検出器

地絡事故電路を自動的に探索して警報、表示する総合監視盤。

地絡点検出器

携帯して、地絡電路をトレースし、サーチコイルで地絡事故点を探索する。



図のように、地絡事故が発生すると「地絡電路検出器」が次の順序でどの電路(分岐回路)に地絡が生じているかを指示します。

- ①回路に地絡が発生すると、その回路に設置した直流地絡継電器64Dが地絡事故を検出します。
- ②地絡電路検出器 (DS-MN) が始動すると同時に64Dの接地を切り離しますと、DS-MNの「地絡電流変換部」で地絡事故電流を11Hzの正弦波の脈流に変換します。
- ③地絡電路検出器の「入力自動選択部」が、回路番号を1秒毎にデジタル表示しながら、貫通形変流器からの信号を無接点スイッチで切り替えていきます。
- ④無接点スイッチで選択されてきた信号は、「地絡検出部」で増巾、フィルタし、電路の容量性のものか地絡事故による抵抗性のものかを判別するように「地絡電流変換部」の信号によって同期整流し、これをデジタルに表示します。信号が設定レベルを越えると、回路選択を停止して警報を発します。打出しの場合、事故発生時刻・地絡抵抗値・地絡電流値や極性を印字したのち、全回路番号と地絡レベルを印字します。入力自動選択のスタート・ストップは、手動でもできますし、ステップ送りもできます。
- ⑤次に、携帯用の地絡点検出器 (DS-P型) で、その電路のどこに地絡点があるかを探索します。

一般に直流制御回路には、直流地絡継電器64Dが設備されています。この場合には、64Dが動作して警報したあと、本装置を手動で始動させるか、自動で始動させるかは任意に設定できます。

本装置で検出操作するときには、どちらの場合も直流地絡継電器64Dの接地は切り離す必要があります。

＜仕様＞

対地分布静電容量の多い設備 (大容量変電所等) では、右記仕様を多少変更する場合があります。

A 地絡電流変換部

- | | |
|----------|------------|
| a. 発振周波数 | 11Hz (正弦波) |
| b. 地絡電流 | 最大表示99mA |

B 地絡検出部 (演算処理部)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| a. 地絡レベル | 99 (最大表示) |
| b. 地絡検出能力 | 9.9kΩ (対地静電容量 50μF以下) |
| c. バンドパスフィルタの中心周波数 | 11Hz |
| d. アンプフィルタ総合ゲイン | 70dB以上 |

C 入力自動選択部

- | | |
|---------|-------------|
| a. 入力数 | 1～n (指定のこと) |
| b. 選択時間 | 1秒/1入力 |

D 電源部

AC100V